



創清会初のティーパーティーに150人がつどい、松井市長を囲んで楽しく懇談する＝羽島市福寿町のホテルココー

紅い気炎

創清会女性部

初のティーパーティー 松井市長と懇親 特別ゲストやバンド演奏

創清会主催の松井聡羽島市長を応援する「女性のつどいティーパーティー」が4月8日午後、羽島市福寿町のホテルココーで開かれ、市内外から幅広い年代の女性150人が参加、アフタヌーンティーを楽しみながら松井市長を囲んで和やかに懇談した。

創清会ニュース

創清会事務局
羽島市
江吉良町719-1

女性地位向上や働き方改革が関心を集める中で、松井市長は「健やかな子育てを支え、次世代を育むま

い年代の女性150人が参加、アフタヌーンティーを楽しみながら松井市長を囲んで和やかに懇談した。

「副大臣を務める経産省は父嘉文が大臣をした役所、2代続けた縁。内閣府のほうは福島復興を担当、週1回は現地に入っています。一刻も早い復興を」と頑張っています」と

この後、ティータイムに移り、松井市長と武藤夫人が全テーブルをまわって女性たちと親しく話した。会場では市内の税理士らで結成する税理士バンドが駆け付け、スイートメロリーなど5曲を演奏してムードを盛り上げた。

「を主要事業の一つに挙げて取り組んでいるが、平成30年度は総合的な子育て支援体制を整備するための羽島市子育て相談センターの設置をはじめ、保育園の延長保育、病児・病後児保育、小学6年生までの児童の放課後受け入れなど女性の働きやすい社会環境を整える施策を展開している。

「副大臣を務める経産省は父嘉文が大臣をした役所、2代続けた縁。内閣府のほうは福島復興を担当、週1回は現地に入っています。一刻も早い復興を」と

「子育て支援は県内一の充実と思う。新発足の『羽つばい』は市職員のアイデア。場合によってはDV(家庭内暴力)に対応できる専任職員も配置した。次代を担う子どもたちの教

育、次の世代につなぐ街づくりに力を入れていきたい」などと語り、参加者に「大いにくつろいで英気を養い、よいアイデアがあればお聞かせください」と呼び掛け、参加した女性たちの共感を待た。

躍する石樽恵美子さんが特別ゲストとして招かれた。冒頭、創清会女性部を代表して瀬古まゆみ女性部長が「こうした女性の集まりは初めて。この機会に松井市長やゲストの方たちとゆっくりとお話してください」と挨拶した。

「副大臣を務める経産省は父嘉文が大臣をした役所、2代続けた縁。内閣府のほうは福島復興を担当、週1回は現地に入っています。一刻も早い復興を」と

「子育て支援は県内一の充実と思う。新発足の『羽つばい』は市職員のアイデア。場合によってはDV(家庭内暴力)に対応できる専任職員も配置した。次代を担う子どもたちの教

育、次の世代につなぐ街づくりに力を入れていきたい」などと語り、参加者に「大いにくつろいで英気を養い、よいアイデアがあればお聞かせください」と呼び掛け、参加した女性たちの共感を待た。

松井聡羽島市長の後援会・創清会(豊島信征会長)は先ごろ開いた役員会で平成30年度の後援会総会と昨年末に行った日帰りバスツアーを今年も実施、日程を決めた。松井市政2期目の中間年に当たる本年度は、「未来を創る羽島市づくり」へ向けて後援会活動に弾みをつけるべく、こうした行事を通じて組織

強化とそれによるいくつかの団結を図っていいことを確認した。それによると「平成30年度創清会総会」は6月23日(土)午後2時から不二羽島文化センターのぎくホールで開催する。後援会を構成する地域支部は

部、職域部など各支部は総会準備として名簿の整理、拡充などに努める。

530人の会員がバス13台を連ねて伊勢神宮にその年のお礼参りをかね、二見ヶ浦まで足を延ばし

楽しいバスツアーを目指す。また、女性の方たちに市政に親しんでもらおうと、初の「女性のつどいティーパーティー」が4月8日にホテルココーで開催された。150人の女性が参加、大好評だった。女性陣の結集は松井市政の推進に心強く、会として今後とも催しを充実していく方針である。

**創清会員は団結、結集を
総会は6月23日(土)
バス旅行は12月1日(土)**

一方、日帰りバスツアーは12月1日(土)に実施する予定。昨年の第1回は市内外から

(裏面はインタビューとティーパーティーのミニグラフ)

「教育・子育て」手厚く

松井聡市長インタビュー

心安らぐ街づくりへ全力

「心安らぐ幸せ実感都市 はしま」の実現に向けて平成30年度も充実した事業を展開する松井市長に、今年も力を入れる教育、子育てについて聞いた。

―教育政策についてのお考えは。

「少子化が進む中で、子どもを安心して

「市内中学校で竹鼻中学校だけが武道場未整備だったが、ようやく道筋がつき、7月には工事に着手、来年3月に完成の予定です」

―小学校での英語授業がスタートします

「今年から小学3、4年生は外国語活動が、小学5、6年生は

―子育て支援事業が手厚くされましたが。「妊娠期から出産・子育て期への切れ目のない支援と健康づくり事業の展開は、人口減少、少子高齢化が進む社会においては、教育を含めて最も重要な分野だと考えます」

―産後ケア事業はそ

の一つですね。



羽島市議会で本年度の市政方針について所信を述べる松井市長

産み、育てられる環境づくりと児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かい教育環境を整備し、『羽島市に生まれて良かった。羽島市に住んでみたい』といわれる街づくりをするのが重要です」

―本年度の具体的な事業は。

外国語の授業がスタート、これに合わせて英語指導助手を1人増員します。スリランカの方で、羽島市は平成20年の東京オリンピックでスリランカのホストタウンになっていきます。英語とともに同国の文化にも触れていた

「退院後間もない母子を対象に助産院に宿泊して休養の機会を捉え、心身のケアや授乳、乳児の世話などきめ細かな支援を行います。また子育て世代包括支援センターを開設、母子保健と子育て支援を一体的に展開する体制をつくりました」

ティーパーティーミニグラフ



ホテル特製の「黒ゴマロール・イチゴのケーキ」とフリードリンクのジュース

松井市長を激励・応援する女性応援団の若いママさんからお年寄りのご婦人たち。ホテル特製のスイーツをお

いしくいただきながら、テーブルをまわる松井市長、ゲストの武藤さんと和やかに語ら



全テーブルをまわって懇親する松井市長とゲストの武藤さん



ティーパーティーを盛り上げた税理士バンドの演奏



松井市長と記念写真で「ハイポーズ」